

令和7年度 学校経営方針(概要版)

一人一人の生徒を大切にできる学校・・・生徒第一・生徒主体の学校を目指します

生徒第一の学校を目指して

生徒の深い学びの獲得や健全な心の育成を図るために、学校生活の中で生徒が主体的に取り組むことができる教育活動を推進します。教員はファシリテーターとしての役割をもち、全ての生徒を全ての教職員でサポートしていく学校組織を構築します。

- ① 生徒一人一人を大切にすることを基本的なコンセプトとし、生徒の良さや可能性を認め、生徒の能力を引き出すことができる学習指導、生活指導等を実践していきます。
- ② 「生徒が創りあげる浅間中学校」という伝統的なスローガンの下で、生徒が各種行事や委員会活動、部活動等の活動に生徒中心、生徒が主体的に活動する環境を作ってまいります。
- ③ 生徒に教えるのではなく学びをサポートし、教員がファシリテートしながら生徒が深い学びを獲得できるような質の高い授業を実践していきます。
- ④ 生活指導では、自己指導力の育成を目指し、豊かな心を育みます。登校することに抵抗がある生徒や特別な支援が必要な生徒に対して、一人一人に応じた有効な支援ができるよう、個別のアセスメントを組織的に行うとともにサポートルームや特別支援教室の効率的な活用を図ります。

きづく <自分の良さや能力、他者の良さ、学習中での発見・・・多くの「きづき」を大切にします>

- 人権教育や道徳科の取組を充実・推進させることで、生徒同士が互いの差異を認め、自分の大切さに気付くとともに他者の大切さにも気付くことのできる心や態度を育成します。
- 授業では、協働的な学習形態を取り入れます。特に、話し合いの学習をすべての教科で実践します。また、タブレットなど、ICT 機器の効果的に活用を図っていきます。

つながる <人や地域・社会と交流することを通して、人や地域と「つながる」心を大切にします>

- 学校行事、学年行事や委員会活動などの取組を、生徒たちを中心にした生徒主体の活動にしていくことで、仲間との絆を深め、好ましい人間関係、望ましい集団形成を図っていきます。
- 部活動やボランティア、委員会活動やふるさと学習を通して、地域・社会と関わる場面を数多く設定し、地域とのつながりや社会との関わりを深めていく取組を推進します。
- 小学校との連携を通して、学習内容の系統性、生活指導の連続性と継続性を大切にします。

たかめる <社会的自立に向けて生徒自身の力を高めさせながら、学校全体の力も高めていきます>

- 生徒の自己指導能力を高めるために、教員と生徒との共感的信頼関係の下、生徒が自己決定できる場を効率的に設定し、生徒第一、生徒の寄り添う生活指導を推進します。
- 登校することに抵抗感をもつ生徒のために、一人一人の適切なアセスメントを行い関係機関と連携しながら効率的な支援ができるよう学校の組織力を高めていきます。
- 障害のあるなしにかかわらず生徒のニーズに合わせた特別支援教育を組織的に実践していきます。また、拠点校の教員との緊密な連携の下で、特別支援教室のより良い活用を充実させていきます。

令和7年度 学びの多様化学校「かがやき」経営方針(概要版)

「かがやき」の教育目標

生徒たちの多様な学びを確保するために特別のカリキュラムを編成するとともに、社会的に自立していく力を育んでまいります。

- 自分自身を輝かせるために、自分の良さや自分のもっている力に気付く
- 自分がある場所を輝かせるために、周りの人の良さを発見し、自分らしく関わる力を育む
- 自分の進む道を輝かせるために、地域や社会で自立できる力を育む

教育目標を達成するために……

一人一人の生徒をどこまでも大切にできる教育活動を推進します

- ① 人権教育や道徳の取組を通して、生徒同士が互いの違いを認め、自分の大切さに気付くとともに他者の大切さにも気付くことのできる心や態度を育成します。
- ② 生徒の学習状況を踏まえた学習形態を効率的に取り入れることで、生徒一人一人に応じた学びの定着を図ります。
- ③ 学習指導やその他の教育活動の中で、ICT 機器を効果的に活用することで、分かりやすく深い学びのある授業につなげるとともに、自分の考えを表出したり、集中力を継続したりするための視覚的な支援の充実を図ります。
- ④ 学校行事や係活動などの取組を通して、集団の一員としての役割に気付かせ、個々の生徒に応じて、仲間とのきずなを深めたりより良い人間関係を創り上げたりする力を育みます。
- ⑤ キャリア教育に関する学習を計画的に実施していくことで、社会的な自立に向けて、働くことの意義を理解したり、自分の特性や適性に気付いたりすることのできる機会を増やします
- ⑥ 自立的な活動の時間を通して、感情をコントロールする方法を学んだり、コミュニケーションスキルを高めたりする活動の推進を図ります。
- ⑦ 成功体験を数多く体験させていくため、全ての教育活動で、できた、できるとの実感を感じる場面や自己決定する機会を設定して自己肯定感の醸成につなげます。
- ⑧ 一人一人の生徒に対して適切なアセスメントを組織的に行い、アセスメントシートに基づく支援の充実を図る。また、個別指導計画を作成し、個々の生徒の目標を具体的に設定し、目標達成に向けて組織的にサポートできる体制を構築します。
- ⑨ 生徒や家庭に対する教育相談機能を充実させるために、学校とスクールカウンセラー、子ども家庭支援センター「みらい」、スクールソーシャルワーカーなどを構成員とした支援会議を定期的に開催して、迅速で有効な支援を実行します。
- ⑩ 保護者会を充実させ、不登校に対する保護者の理解や認識を深めたり、保護者同士の連携が図られたりすることができるようにします。